

授 業 科 目 名	国語科教育法Ⅲ	教 員 名	菅 邦男	免 許 ・ 資 格 と の 関 係	小学校教諭	選択必修
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	演習	担 当 形 態	単 独		保育士	
科 目 番 号	SID303	配 当 年 次	3 年 後 期	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
単 位 数	2 単 位				小 幼 コース	選択必修
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）（小学校）					
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等	・ 各教科の指導法					
科 目						
系 列						
到 達 目 標	国語科教育法Ⅰ及びⅡを踏まえ、教材分析を行い、授業を構想、模擬授業を行うことにより、授業構想力・実践力を培う。また、物語の構造を分析し、その構造を踏まえた創作を行い、模擬授業により創作指導法を身に付ける。					
授 業 の 概 要	小学校国語教材を対象とした授業実践記録（ビデオ・学習指導案）の授業展開・発問・板書の仕方等を参照し、その指導案に基づいた模擬授業を行う。次いで、目標を設定し新たな教材を開発する。教材分析の上、授業を構想し模擬授業を行う。教材は扱いやすさを考慮し、主として詩教材、短い物語教材とする。また、「読む」「書く」二領域を関連させた創作指導を学ぶ。物語教材の構造を分析し、その構造に則った創作過程を体験することで創作指導法を身に付ける。その上で、他の物語を教材として創作指導の模擬授業を行う。授業形態は演習とする。アクティブラーニングとして、「個別の質疑応答、対話型講義、グループでの討議・発表等」を取入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：授業の趣旨を理解し、グループを構成する。</p> <p>第2回：詩の特性について 詩には、「テーマ性」（内容）の強い詩、「リズム性」の強い詩、「イメージ性」の強い詩がある。むろん多くの詩はいずれかの要素だけで成り立っているわけではない。中原中也の「また来ん春」のようにリズムにのせて「テーマ」を歌った詩もある。それぞれの例に基づき、詩の特徴について理解する。</p> <p>第3回：詩の特性をとらえる さまざまな近代・現代詩を読み、その特徴をとらえる。</p> <p>第4回：詩の特性をとらえた授業（テーマ性） 指導者による、「テーマ性」（内容）の強い詩の模擬授業を受け、授業の趣旨を理解する。</p> <p>第5回：詩の特性をとらえた授業（リズム性・イメージ性） 指導者による、「リズム性」の強い詩、「イメージ性」の強い詩の模擬授業を受け、授業の趣旨を理解する。</p> <p>第6回：授業実践記録に基づいた模擬授業（Aグループ）。 授業記録の指導案に基づいて授業を行う。授業後、質疑応答。</p> <p>第7回：教材開発と模擬授業、質疑（B・Cグループ） 各グループで目標を設定し新たな教材を開発する。共同研究により教材分析を行い、指導案を作成し、B・Cグループの模擬授業を行う。授業後、質疑応答。</p> <p>第8回：教材開発と模擬授業、質疑（D・Eグループ） D・Eグループの模擬授業を行う。Aグループは構想した授業を発表する。授業後、質疑応答。</p> <p>第9回：簡単な物語の世界を描写する。 創作の基本的な方法（一文ごとにイメージを広げ描写する）を学ぶ。</p> <p>第10回：物語の構造を押さえた読みの指導</p>					

	<p><u>フィンランド国語教科書教材の問に基づき、物語の構造をとらえる「読み」の方法を学ぶ。</u></p> <p>第11回：物語の構造を押さえた創作指導  <u>物語の構造（構成）をとらえ、それを踏まえた創作を行う。</u></p> <p>第12回：創作指導の模擬授業を行う。  <u>物語教材を使い、読解から創作への模擬授業を行う。</u></p> <p>第13回：寓話教材の「読む」「書く」領域の関連指導による模擬授業を行う。  <u>プロットを設定し（複数設定から、漸次減らす）、それを生かした創作を行う。</u></p> <p>第14回：プロットを活かした創作  <u>プロットを設定し（複数設定から、漸次減らす）、それを生かした創作を行う。</u></p> <p>第15回：プロットを活かした創作指導の模擬授業を行う。  <u>期末試験</u></p>
学生に対する 評価	<p><u>授業中の発表50%、定期試験50%で評価を行う。</u></p> <p><u>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>コメントを記載して返却する。</u></li> <li>・<u>授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</u></li> <li>・<u>答案例を配布する。</u></li> </ul>
授業外学習 について	<p><u>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</u></p> <p><u>毎回の講義では、事前学修として、講義前に配布されたプリントや指示された教科書・参考書を読み、重要な個所についてマークするなど事前に把握・勉強しておくこと。また、事後学修として、講義で学んだことはカラーペン等でマークし、さらに板書等を書きこみ、要点等を整理して一冊のノートにまとめること。また、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。</u></p>
テキスト	<u>特になし（プリントを配布する。）</u>
参考書・ 参考資料等	<p><u>『小学校学習指導要領（平成29年告示）』</u></p> <p><u>『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』</u></p>
担当者からの メッセージ	<u>特になし</u>
オフィスアワー	<p><u>毎週木曜日 15:00～17:00</u></p> <p><u>その他の日時は、メール等でアポイントを取って来室すること。</u></p>